

事後評価報告書(日中研究交流)

1. 研究課題名:「南京化学工業地区を対象とした水資源の有効利用・汚濁負荷削減に資する技術開発及び効果的な節水に資する情報管理システムの構築に関する技術研究」

2. 研究代表者名:

2-1. 日本側研究代表者:

株式会社 日建設計シビル 開発計画・設計部門 計画主管 井邊 裕彦

2-2. 中国側研究代表者:

同済大学 環境科学与工程学院 副院長 Li Guangming

3. 総合評価:(C)

4. 事後評価結果

(1)研究成果の評価について

工業用水について用排水管理の適正化を行うための数学モデルを開発し、広域的な水循環が必ずしも経済性に優れているわけではないことを明らかにしたことは有意義であった。しかし、日本側が開発した技術がどのように中国側で活用されたかが具体的に明らかにされていない。中国側工場の実稼働データは入手できなかったとのことであり、中国側データ入手を前提とした計画に無理があったのではないと思われる。

(2)交流成果の評価について

中国の水処理技術の現状を、わが国の民間企業実務者が直接知る機会を得たことは有意義であった。しかし、日中の研究者による相手国工場の視察を前提とした計画には無理があったのではないかと指摘せざるを得ない。相互視察ができない場合の対応について、事前に考えておくべきであったと思われる。

(3)その他(研究体制、成果の発表、成果の展開等)

論文発表、特許出願がまったくなされていない。また、セミナーも1回開催されただけであり、十分な交流が行われたとは言い難い。研究対象工業園区が中国の重要施設であることから日本において論文発表を差し控えているとのことであるが、わが国の国家予算を用いた本事業では、二国間の研究交流の促進のみならず国際共同研究として成果を挙げることが必要であり、今後、表現の仕方を工夫して成果の発表を行うことが重要である。また、日本と中国で法規制に違いがあり、それが水の再利用の基本方針を大きく変えてしまうとの指摘があるが、それぞれの長所、短所を整理して、まとめておく今後役立つと考えられる。